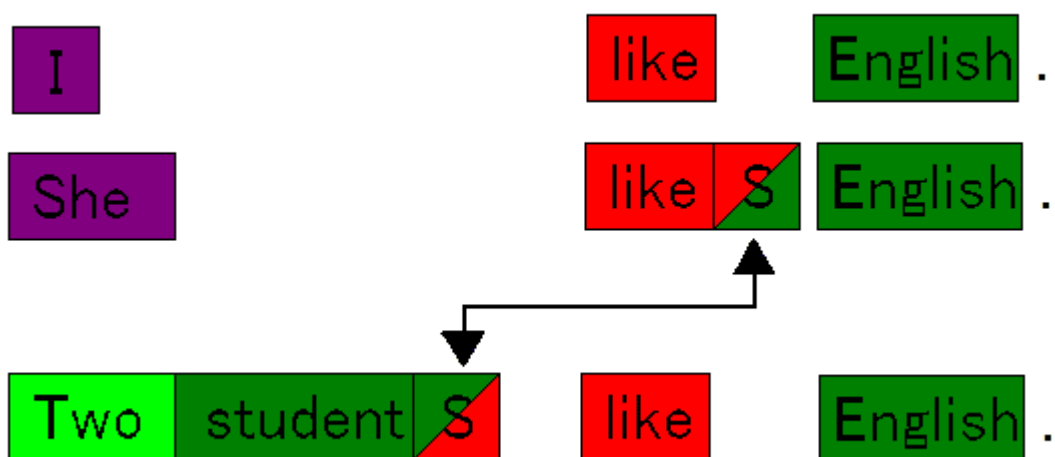


TOEIC Bridgeを渡るための



英語的発想のススメ



Shige Grayfield

目次

1、はじめに

2、動詞が英語の心臓だ

- (1) 命令形で動詞を身体で覚えるアメリカの子供達
- (2) 主語と述語の世界 ~ 彼らは、「あれは何だ。」「これは何だ。」と言っている
- (3) アメリカでも、英語(彼らにとって国語)の授業がある
- (4) 何故、日本人は英語がしゃべれないのか

3、Iは、ローマ数字の1である

- (1) 三人称単数の動詞現在形にSを付ける理由
- (2) BE動詞は、たった3つしかない
- (3) YOUは、あなたではなく、敵だった

4、“This is a pen.”の“a”って何？

- (1) 鳥達と言わない日本人と、BirdとBirdsは大違いのアメリカ人
- (2) “a”は、単位である

5、思想と言葉

- (1) 1思想と0思想
- (2) 私、俺、僕・・・、場面に応じI(自分)が変わる ~ 私は一体、何者か？
- (3) 日本語のテクニク ~ 察し(思いやり)と敬語

6、アルファベットは、26文字しかない

- (1) 1の特徴の付け方
- (2) 代名詞が物語る名詞の分類

7、英語は、単語の積み木だ

- (1) 現在・過去・未来～♪ではなく、英語には、現在と過去しかない
- (2) 英語で、こう発想しよう！

8、日本人のポテンシャルは、かなり高いぞ！

- (1) カタカナ語で、たくさんの英単語を知っている日本人
- (2) 英単語には、頻度がある

9、日本語では、理解しにくい過去形の話

- (1) 助動詞は、何のためにあるのか？
- (2) 「コーヒー欲しい？」より「コーヒー欲しかった？」で表現を柔らかく
- (3) 過去形は、頭の中の世界である

10、英単語の機能

- (1) 英単語は、8つに分類される
- (2) 前置詞は、記号で覚えよう
- (3) 英語に、「は、に、を」はない

11、私の英会話教室

- (1) TOEIC Bridgeを渡るため
- (2) レインボーブロック
- (3) 小学生用英会話教室
- (4) 大人用英会話教室

12、おわりに

1、はじめに

2001年12月2日午前3時頃、私は、突然、目を覚まし、ベッドから飛び上がり、こう叫んだ。「amは、a manの略だ。」「isは、1(s)だ。He live(s)とHe i(s)は、同じ意味だ。」「Iは1だ。解った、解った。」「これで日本の英語は、変わる。」と。今、これを読んだ方は、何の事？と思われると思います。これが、本書のベースになります。

私は、この言葉を信じ、本書が、日本人の英語力を大幅に向上させると信じて疑いません。

現在の日本人は、中学～高校～大学、あるいは英会話教室に通っても、真暗闇の世界にいて、どこへ進んで行けば良いか解らない状態にあると思います。本書は、これに光を当て、進むべき方向を示します。

また、英語力向上は、山登りと同じで、ステップ・バイ・ステップで進まねばなりません。しかし、現在の日本人は、英語の雲海に入り、何も見えない状況にあるのと同じです。本書は、ここから雲を取り去り、視界を良好にし、山の頂上が見えるようにします。頂上が見えて来ると、自分がそこへたどり着くまでに、どのくらい努力すればいいか、どのくらい時間がかかるかが計れるので、自分の歩み方が解ってきます。

私達の受けた英語教育は、明治維新で活躍したジョン万次郎による英語を日本語に訳す方法です。それ以来、約100年もの間、この方法が、変わっていません。いつまでたっても、英語の出来ない日本人があるのは、ここに理由があります。

明治維新以後、西洋文化を取り入れて、欧米に追い付け追い越せの時代は、この方法で良かったのだと思います。しかし、時代は、とっくに変わりました。英語を英語のまま覚える。これが、英語的発想のススメです。

これまで、私達は、外人の投げたボールを剣道の構えで、打ち返そうとしていたようなものです。

本書は、ボールを打つために、正しいバットの握り方、正しい構え方を教えます。そして、大切なのは、毎日の素振り、コツコツ練習です。繰り返しこそが、英語習得の近道です。

今の時代、私達の時代は、MD、CD、MP3プレーヤー、パソコン、インターネット、二カ国語放送などなど、繰り返し練習ができるハードウェア、ソフトウェアがたくさんあり、教材には、事欠きません。私は、その中で、an English coachとして、みなさんに、トスを上げたり、ノックをしたりして、英語習得のお手伝いをします。

ネイティブだから、それだけでは、いい英語教師とは言えません。野球の例にたとえ、正しいバットの握り方、正しい構え方を教え、トスやノックが上手な人が、良き指導者だと思います。

2、動詞が英語の心臓だ

(1) 命令形で動詞を身体で覚えるアメリカの子供達

私の勤める会社が、係長昇格の要件に、TOEIC600点以上を加えた時、私は、以前から英語を習得したいと思っていたので、「これは、いいチャンス。」と思いました。しかし、習得する方法として、中学英語の復習、NHKラジオ……、いい方法が見つからなかった。そんな時、出会ったのが、中嶋太一郎氏のコミニカ英語研究会 (URL:<http://homepage3.nifty.com/cominica>)である。氏の考えは、アメリカの子供達は、親から、命令形を浴びせられ、動詞を覚えていく。まず、動詞ありきというものだ。

犬をしつける時、骨を投げて、「取って来い！ = Get it!」や「お座り！ = Sit down!」と同様に、子供に対して、ミルクが欲しいかを聞く時は、“Would you like a milk?”ではなく、“Want a milk?”であり、しつけと同時に命令形を浴びせられ、動詞を身体で覚えるというものです。

寝なさい！、起きろ！などなど、日本語でも、命令口調で、子供をしつける。

Go to bed!

Get up!

私は、中学校の授業で、命令形は、簡単なのに、「関係代名詞や現在完了形って何？」「一体、○○詞や○○形が何のためにあるのか理解できない。」と疑問だらけだったので、中嶋氏の考えは、私に一筋に光を与えました。

中嶋氏は、主語とBE動詞(am, is, are)、助動詞(do, does, must, will, shall, can, may)、完了形(have, has)をパソコンのキーボードにあるファンクションキーにたとえ、このファンクションキーをたたくと、次に動詞を先頭にした命令形(これを動詞フレーズと表現)が続くとした。これを中嶋氏は、ファンクションメソッドと名付けている。これによって、英語の基本である主語・述語、つまり、**S+V**が出来上がる。

映画を見ている、緊迫した場面では、命令形である。

Hurry up!

Get out!

Watch out!

などなど。

命令形は、相手に命令、つまり指示をしていると思う人もいるでしょうが、そんな事はありません。私は、以前、子供に“Come on, Shige.”と言われ、「来い、シゲ。」と訳して、ムツとした事がありましたが、その子は、めずらしい花を見つけたので、私に見せたかったようで、相手に全く悪気はありません。

命令形をベースに、主語(特にI)をくっ付けるのが、英語的発想の出発点です。

(2)主語と述語の世界 ～ 彼らは、「あれは何だ。」「これは何だ。」と言っている

前記を踏まえ、英文を主語側と述語側に区切って作る。

主語側	述語側(命令形)
I	sit down
I can	stand up.
I will	go to bed.
You	kick the ball.
You must	stay here.
You don't	hurry up.

立派な英文が出来ました。これらさえも、今の日本人には、作れないのです。

ここで、特筆する事は、主語側は、主語とBE動詞&助動詞(以降、have,hasも助動詞に含める)の組み合わせで、数が限定される点である。英語は、無限に表現パターンがあるのではなく、限定される言葉だと考えた方がよい。よって、動詞の使い方をマスターし、動詞による表現をバラエティーにする事で、表現力を増す。また、makeを作ると考えず、させるとの使い方もマスターし、makeのままの使い方を覚える。これが、英語→日本語の表現でなく、英語のままに表現する事につながって行きます。

I make a cake.

I make her a cake.

I make her crazy.

“ペラ・ペーラ”“ペラ・ペーラ”は、「あれは何だ。」「これは何だ。」と、主語・述語でしゃべっているのです。

繰り返しますが、その中で、主語側は、表現パターンが限定され、述語側、つまり、動詞を先頭にした命令形で表現力を増やします。

外人から、“ペラ・ペーラ”“ペラ・ペーラ”と言われ、私達、日本人は、“ハアーン?”となりますが、彼らは、あれは何だ。」「これは何だ。」と、主語・述語でしゃべっています。

さあ、この主語・述語の作り方をマスターしましょう！！

Are you ready?

(3)アメリカでも、英語(彼らにとって国語)の授業がある

アメリカでも英語の授業があると聞いて、「えっ、本当？」という人がいる。

命令形で動詞を覚えた後、アメリカの子供達が、どんな順序で、言葉を獲得するのかに興味があったので、はまの出版の「アメリカの子供はどう英語を覚えるか(シグリッド・H・塩谷著)」、「アメリカの小学生はどう英語を覚えるか(メアリーベス・スーザ著)」、「アメリカンスクールはどう英語を教えるか(瀧沢広人著)」を読みました。

アメリカでも、英語の授業がある。

小学1年生で、まずは、正しい前置詞の使い方を覚える。木陰に隠れているウサギの絵が書いてありbehindを、トイレットペーパーの芯を利用して、その中をミニカーをくぐり抜けさせてthroughを説明したりする。

私達、日本人は、授業で正しい前置詞の使い方を教わっていない。これは、日本の英語教育の大きな欠陥だと思います。

位置や状態を表現するため、前置詞は、英語で多用される。住所や時間を表現する時、「onだったかな?」「この場合はinが正しい。」「toとforは、どう違うの?」などとやっているのが、今の日本人です。これでは、“ペラ・ペラ”について行けません。

小学校で、どう英語を教えるかが話題になっている。外人教師を招くや雰囲気慣れるなど意見があるが、英語力を向上させる具体的な方法が全くない。どうして、アメリカでの授業を参考にしないのか、そういう意見が出てこないのか、不思議です。

外人は、漢字が読めません、書けません。私達は、漢字ドリルで、点線をなぞりながら、覚えたのです。アインシュタインもニュートンも、漢字を覚えるには、漢字ドリルから始めなくては、書けないでしょう。



アメリカ人が使う初等用のテキストを入手して、トライしてみました。象の絵があり、An elephant (have has) a big nose. で、haveかhasに、○で囲めという内容である。絵を多用し、解りやすい構成になっていました。

いきなり、英字新聞を読んだり、CNNを見ても、理解できません。まずは、簡単なところから始めましょう！！

小学3年生で、現在完了形を教わるようです。これも理にかなっていないと思います。命令形で、動詞を身体で覚えた子供が10才になり、それなりの人生経験を積む。野球少年であった私が、10才の時、こんな感じで現在完了形を使うと思います。

野球をした後、家に帰り、母からこう言われる。

Wash your hands! = 「手、洗え！」

私は、こう切り返す。

I have already washed my hands. = 「もう、洗ったよ。」

洗った事を私は持つ。つまり、経験したのである。

日本語には、現在完了形に相当する言葉がないため、これを理解しづらい。命令形で指示されて、行動し、それをhave = 持つと結び付けて、経験したのである。

守備のポジションを決まる時、こんな風に、現在完了形を使ったと思う。

Have you been a catcher?

キャッチャーは、経験者が少なく、みんなが嫌がるので、経験者は貴重です。

アメリカで、日本人が、レンタカーを借りるシーンで、店員が、こうたずねる。

Have you driven in U.S.?

Noと答えると、「アメリカは右側通行だよ。」とアドバイスできます。

007の映画で、ジェット機に乗り込む時、ジェームス・ボンドは、

Have you driven this plane?

と操縦士にたずねて、彼を信用していいのか判断していた。

新製品の広告にて、開発した会社は、

We have developed the new product.

「我々は、新製品を開発した(のを持った)。」と、ある過程を通り開発したとなる。

これが、

We developed the new product.

では、「我々は、新製品を開発した。」となり、重味がない。

ちょっと話が横道にそれたが、命令形を浴びせられ、それを受けて、実際に行動し、〇〇した。そして、haveと〇〇したを結び付ける事によって、経験をしたのです。

このように、アメリカの子供達は、成長と共に英語を覚えるのです。

(4)何故、日本人は英語がしゃべれないのか

これまでに、何故、日本人は英語がしゃべれないのか、その原因について、

- ①命令形による動詞の使い方を身体で覚えていない事
- ②正しい前置詞の使い方を知らない事
- ③現在完了形に代表される日本語にない表現を日本語で理解しようとする事を上げました。

更に上げます。

④主語I(=私)を日本語では言わない事

命令形に主語Iをくっ付けると、自分を伝える事ができる。しかし、日本語で、「私は、---。」「私が、---。」と、私は、私をを日本語を連発すると、周囲の人は、その人をでしゃばりな人と受け取ります。これが、英語→日本語・日本語→英語の置き換え英語を教えられた私達、日本人が英語がしゃべれない最も大きな原因であると考えます。私の経験で、海外旅行でしゃべる英語は、自分の事が殆どなので、**I+命令形**で事足ります。

⑤英語と日本語では、語順が逆な事

I can go there at nine.

私は 9時に そこへ 行く事が できる。

結論が日本語では後に、英語では先になり、英語と日本語は語順が逆です。

英語と日本語は、全く違う表現なのです。

⑥助動詞は、動詞を助けるのではない事

⑦be+〇〇ingで進行形、be+〇〇edで受動態ではなく、
be/〇〇ing、be/〇〇edで、beと現在分詞、beと過去分詞で切れている事

⑧have+〇〇edではなく、have/〇〇edで、haveと過去分詞で切れている事

以上が考えられます。

I can + go there. → I can / go there.

I am + going there. → I am / going there.

She is + called Natalia. → She is / called Natalia.

I have + gone to America. → I have / gone to America.

前ページの例文にて、I can→Can Iに倒置できる。I am→I'mに、She is→She'sに、I have→I'veに短縮できる。だから、これら(BE動詞と助動詞)は、主語側にある。

“She is called Natalia.”にて、“She is called Natalia, isn't she?”と、付加疑問に成れるのが、主語側である。

中学校で、be+〇〇ingで進行形、be+〇〇edで受動態、have+〇〇edで現在完了形と教えられましたが、ここで切れている。ここで切れていて、後には述語、動詞を先頭にした命令形が変化した言葉が続くと考えると自然な発想になります。

この発想が出来るだけでも、英文の切れ目が理解できて、TOEICのスコアが上がります。

私は、この発想が出来るまで、海外の店での支払いに、“Credit card, OK?”の人でしたが、クレジット・カードを使う(Use a credit card)を考えて、それにCan Iを加える発想で、“Can I / use a credit card?”この発想が出来た時は、とてもうれしかった。店員さんから、“Yes, you can.”と返って来た時は、一丁前になったと思いました。また、チケットを買う時も、まず、チケットを買う(Buy a ticket)を考えて、その先頭に場所(Where)を加えて、“Where / can I / buy a ticket?”が言えました。店員さんから、“Next counter.”が返った時は、涙が出る程(ちょっと大袈裟ですが)、うれしかった。

私は、中学生からビートルズが好きですが、She loves youを「She loves you, yeah, yeah, yeah. You think アンハハーン〜♪」で、何ともいい加減に聞いている人でした。殆どの日本人が、そうでないでしょうか？

私のモットーは、“Slow and steady wins the race.”で、命令形をベースにしなが
ら、コツコツとTOEICのスコアを390、450、510、570、620と、1年ごとに上げて来
ました。15年前は、220でしたヨ。

苦労があったからこそ、an English coachになれると自負します。

英語は、教養のひとつ、頭の良い人の象徴でありました。本書を読まれた英語の出来ない方は、「あっ、そうか、これでいいんだ。」とお感じになられると思います。英語の出来る方も、「な〜んだ、こんな考え方。」と思われず、どうか最後まで、ご一読をお願いいたします。

3、Iは、ローマ数字の1である

(1) 三人称単数の動詞現在形にSを付ける理由

初等用テキストに、4コマ漫画が書いてあり、そのストーリーを表現する課題があったので、これをヒントにして、4コマ漫画を購入し、「主語・述語＝何がどうなっているか」の表現練習をしました。

主語・述語表現のみの発想では、

He / go out.

She / eat an apple.

になってしまい、動詞にSを付けるのを忘れる。

上の文は、

He / gos out.

She / eats an apple.

が正しい。

何故、三人称単数の動詞現在形にSを付けるのか、考えに考えた。その結果が、冒頭に書いた真夜中の出来事である。

もう一度書くと、

①amは、a manの略である。

②isは、1sで、He live(s)とHe i(s)で括れる。

③Iは、ローマ数字の1である。

ここから英語が出来ている。

考えに考えていた頃、左脳の天辺がズキズキしました。ここに、英語回路を作ったようです。以前、テレビで、英語の出来る人と出来ない人の脳をスキャンして、どの辺が反応しているかを実験していたが、出来る人は、左脳の天辺が赤くなり、反応していた。私の経験からしても、物理的に言えば、左脳の天辺に英語回路を作るのが、英語習得に思います。

(2) BE動詞は、たった3つしかない

真夜中に飛び起きた後の朝に、じゃー、areは何なんだろうと考えた。これは、「a・re→aにreせよ」である。

aについては、3項で詳しく述べるが、1単位(1個)である。reは、returnやrefreshなど、戻せの意味がある。よって、「are→a・re→aにreせよ→1個に戻せ」と考えました。

以上、BE動詞をまとめると、

I am → 1 a man → 1 1人間
is → 1 s → 1個体
are → a re → 1個に戻せ

というコマンドになっているのです。

つまり、

I am Shige. → I a man Shige. → 1 1人間 シゲ。
He is Ryu. → He 1 s Ryu. → 彼 1個体 リュウ。

なのです。

ここで、

I am Shige. → 私は、シゲです。
He is Ryu. → 彼は、リュウです。

で、「は」や「です」は、ありません。

これは、日本語です。

isの主語になる人や物は、1個体であればよく、人と動物、物を同様に扱ってよい。

He **is** Mr.Koizumi.

He **is** Tama.

This **is** a map.

日本語で、小泉さんと猫のタマを同様に扱ってはいけませんが、小泉さんとタマ、地図は1個体なので、isにて、英文法上では、同様に扱ってもかまいません。

I am以外(自分以外)の1個体は、isで、同様に扱えるのです。アメリカ人が、個人主義だと言われるのは、ここに理由があると思います。

複数の名詞の後には、Sが付く。cats, dogs, carsなどなど。

主語・述語表現にて、

主語が単数の時 : A cat / runs.

主語が複数の時 : Two cat**s** / run.

Sが移動します。

Sの移動によって、英語は、常に数を意識させる言葉になっています。

IとSは、裏表の関係にあり、主語がIでない時は、Sが主語か述語(動詞)のどちらかに付くようになっています。

Did you understand them?

英語には、アルファベットの26文字しかなく、これらを組み合わせ「ABCの算数」と考えれば、楽に取り組めます。その原点が、I=1=自分にあります。

以上を踏まえると、飛行機の中で、“Tea or coffee?”と聞かれ、“I am a coffee.”と答える事がなくなると思います。

漫画にて、犬のポチやイルカのフリッパーが自己紹介をする時、

I am Pochi.

I am Flipper.

としゃべりますが、

I a dog Pochi.

I a dolphine Flipper.

としゃべるのが、英語的には正しいと思います。(彼らが、英語をしゃべれたらネ)

(3) YOUは、あなたではなく、敵だった

BE動詞について、

I am → 1 1人間

単数 is → 1個体

複数 are → 1個に戻せ

と考えた時、「何故、You is ～」にならないのか疑問が残ります。

私は、YOUは敵なのだと考えました。敵に多いも少ないも関係ないと。

YOUは、日本語では「あなた」と訳され、「あなた」は、主に奥さんが、旦那さんと呼び時に使います。旦那さんは、奥さんにとって、Only oneであり、一番の味方です。しかし、YOUは、「あなた」ではなく、「おまえ」や「てめえ」の方が感覚として当たっていると私は思います。

解釈としては、We are (味方側) に対する You are (敵側) にあるのではないかと。

例えば、

We are Tigers VS You are Giants.

We are three workers VS You are two bosses.

I am Kakefu VS You are Egawa.

I, Weに対するライバルがYou.

ライバルYouは、Iにとって、自分を高めてくれる存在になるので、Iには貴重な存在です。

Iは、英語の中で、とても特別な存在です。**Iが英語の中心**です。この3項で書いた私の考え方(BE動詞の解釈)について、英語学者さんと話したいものです。

4、“This is a pen.”の“a”って何？

(1) 鳥達と言わない日本人と、“Bird”と“Birds”は、大違いのアメリカ人

中学1年生で習う“**This is a pen.**”から、英語学習がスタートします。私は、“**a**”って一体何？が、ずっと謎でした。その答えをこの項で書きます。

私の趣味は、スクーバ・ダイビングで、世界中の海を潜りました。当初、現地に日本人ガイドがいるので、英語はしゃべれなくてもいいやと考えていましたが、会社が係長昇格要件にTOEIC600以上を加えた事で取り組んでいます。TOEIC500を越えたくらいから、外人と会話ができます。英会話ができると海外旅行は、100倍は楽しいです。TOEIC500ぐらいは、誰でも簡単に到達するので、この本をよく読んで理解して下さいネ。

アメリカ人ダイバーと、鳥がたくさん棲んでいるある島の話になりました。

私は、主語・述語表現で、鳥について、

「鳥は、小さい。」→“A bird is small.”

「鳥は、白黒だ。」→“A bird is black and white.”

と表現したのですが、

アメリカ人ダイバーは、

“A bird?” “No!” “Birds!”

ものすごい数の鳥が棲んでいるので、このアメリカ人ダイバーには、一羽の鳥がイメージできなかったのでしょうか。その後も、私が、A birdを連呼する度に、“Birds!” “Birds!”と言っていました。その夜、こんなにも違うのかと思いましたが、私には、いい経験になりました。

私達、日本人は、鳥が何羽いても鳥達とは言いません。犬が何匹いても犬達とは言いません。しかし、アメリカ人は、A dogとDogs、A birdとBirdsは、大きく違うのです。名詞にSを付ける事による複数、〇〇達の表現があります。

(2) aは単位である

aは単位である。どういう事かと言うと、

Here is **a** dallor.

Here are two dallor**s**.

ドルは通貨の単位で、1ドルにSが付かないが、前にaが付く。2ドルにはSが付く。

同様に、長さは、one meter, two meters

同様に、重さは、one gram, two grams

同様に、ペンは、

This is **a** pen.

These are two pen**s**.

aは、形や姿が、決まっており、これ以上割り切れない個体に付くのです。
ドルやメートル、グラムは単位と同様に、ペンや箱も同様に扱えるのである。

しかし、水のように、姿・形が、決まっていないものは、“This is a water.”には、なりません。

ここで、カップという単位を付ければ、

This is a cup of water.

These are two cups of water.

になります。

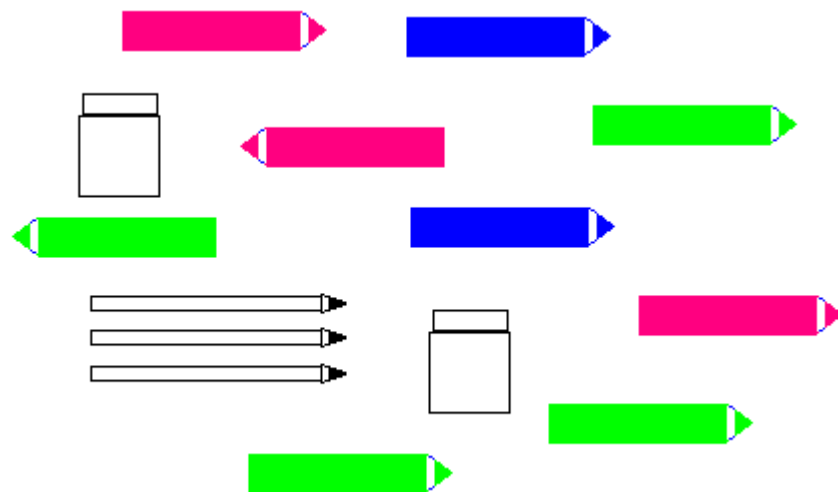
また、リンゴを、

This is apple.とすると、姿・形のないすりおろしリンゴになります。

This is an apple.にすると、姿・形のあるリンゴになります。

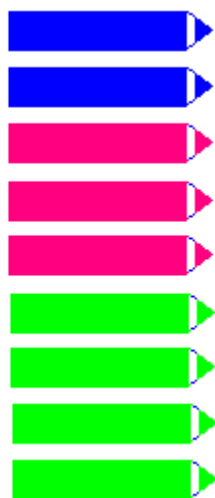
机の上に、9本のペン、3本の鉛筆、2個の消しゴムがあります。

There are nine pens, three pencils and two erasers.



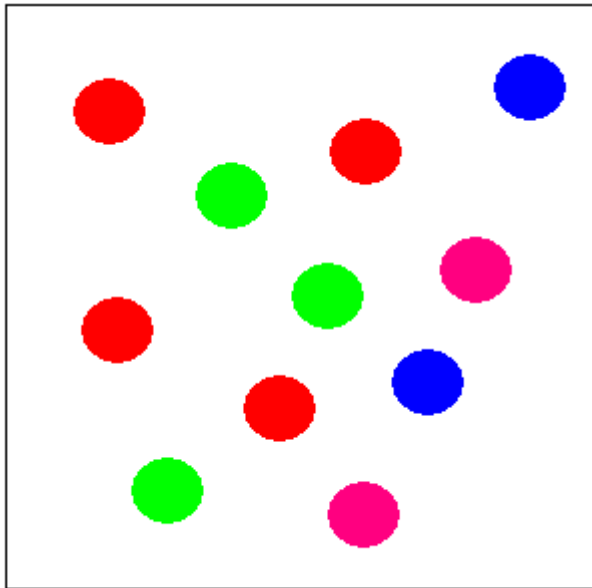
ペンを色で整理して、

There are two blue pens, three pink pens and four green pens.

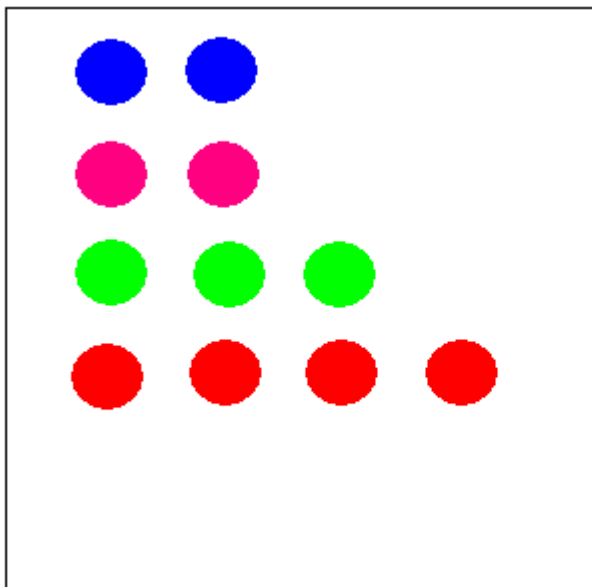


この様に、理路整然と整理整頓するのが英語です。

黒板に、磁石が数個あっても、私達は、磁石達とは言いません。しかし、英語では、magnets = 磁石達なのです。



日本語 : (磁石が数個あっても)磁石



two blue magnets

two pink magnets

three green magnets

four red magnets

英語 : (磁石が数個あったら)磁石達

人間の身体でも、目はeyesです、eyeは、片目です。上から、eyes, nose, ears, mouth, shoulders,・・・legsと2つあるのは複数になり、Sが付きます。

英語は、常に数を意識します。

5、思想と言葉

(1) 1思想と0思想

前記してきたように、英語は常に数、特にそのベースになる1個体を意識する言葉になっています。更にもその中心が、I=1、つまり、自分です。海外旅行で話すのは、殆どが自分がどうしたいかであり、「I+命令形」、I want ～, I order ～、で伝わります。

言葉の前に思想ありきで、西洋はギリシャ・ローマに端を発する1思想、東洋は仏教に影響された0思想がベースになり、言葉ができていていると思います。

会社であるミーティングがあったとします。参加者は、5人で、私より8歳年上の上司Uさん、10歳年上のFさん、同じ年のKさん、5歳年下のAさん、そして私です。このミーティングで、ある海外の場所が話題になり、私がそこへ行くチケットを持っていたとします。私は、この場で、「私は、そこへ行きことができる、チケットを手に入れたから。」と自慢気に言いたくなった。英文にすると、

I can go there because I got a ticket.

「私は、そこへ・・・」と言いかけた瞬間、10歳年上のFさんが、「でも、あそこは治安が悪いと聞いた。僕の家族には絶対に行かせない。」と言った。それを聞いた私は、自分の事を家族のようにしたって下さるFさんに、そこへ行く事が言えなくなる。そこへ、上司のUさんが、「私は、そこへ・・・、何かね？」私に聞いた。すると、私は、「私は、そこへ行くかもしれなかったが、治安が悪いと聞いたので・・・。」と結論を変えてしまうのです。

I may go there, but・・・.

日本語は、結論を後にする事で、周囲の状況を見ながら、周囲に合わせて、自分の意思を変える事ができるのです。英語は、主語の次に動詞、つまり結論がくるので、変えようがありません。今でこそ、インターネットで情報が得られるので、ある場所の治安が悪いかどうかは、年上の意見に関係しませんが、戦前や100年前、もっと前は、年上の意見は、強かったに違いありません。ここから、日本語は0思想。丸く収まるといった、円・和・輪といった思想ありきの言葉と考えます。

イギリスの大英博物館で、たくさんの像を見ました。

西洋は、力強い肉体美を表現する筋肉盛々の彫刻は、1思想。

東洋は、ブッタのおだやかな表情、万物一体と説くのは、0思想。

医学にて、

西洋は、身体の隅から隅まで、機能別に分類していく医学は、1思想。

東洋は、気孔に代表される心と身体が一体になる医学は、0思想。

宗教にて、

西洋は、モーゼが海を切り開き、1人の頑張りで引っ張って行くのは、1思想。

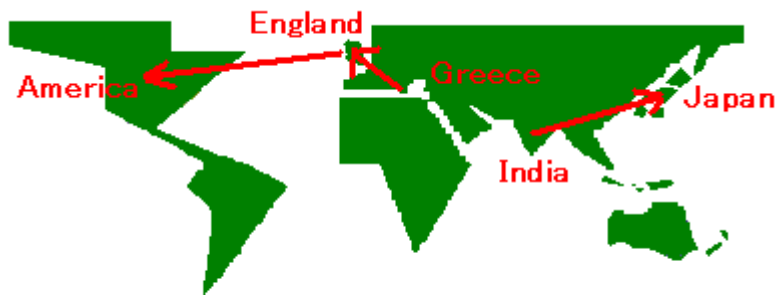
東洋は、南無阿弥陀仏と称えるのは、0思想。

そして、言葉にて、

西洋(英語)は、1個体を追求し、I=1、自分が中心になっているのは、1思想。

東洋(日本語)は、私を言わず、結論を後にして、周囲にあわせるのは、0思想。

思想ありきの言葉です。



(2) 私、俺、僕・・・、場面に応じ(自分)が変わる ～ 私は一体、何者か？

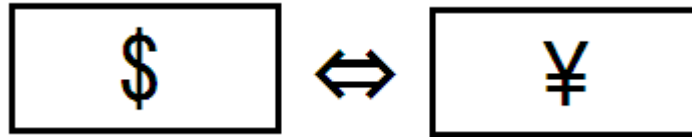
英語→日本語・日本語→英語の置き換え表現で、日本人が英語が出来ないのは、主語I=私を言わない事。これが、一番の原因です。日本語で、「私は、――。」「私が、――。」を連発すると、周りの人は、「あの人は、なんて、でしゃばりな人なのでしょう。」と受け取ります。

そして、日本語では、主語I=私自体が変化します。場面によって、私、僕、俺、小生などなど。自分は、無い様なものです。自分探しのために、自分発見の旅、修行、仏の道、自己開発セミナーに入ったりします。しかし、社会に復帰すると、再び、自分が無くなります。自分が無くなる原因は、自分にあるのではなく、日本語に原因があります。昔、「目標〇〇〇店」という拡販を目指す薬屋のテレビ・コマーシャルがあったのですが、目標に向かって一丸になれるのが、日本人の特長で、そうさせるのが日本語です。

私は、しばらくうつ状態にあったのですが、「I a man Shige.」=「1 1人間 シゲ。」を大声で連呼し、この世にたった1人の人間シゲを意識する事によって、自己認識を持ち、グローバルやヒューマンという感覚が生まれました。

英語と日本語の瞬時変換は、不可能です。円とドルの換算を考えて下さい。

海外旅行のお土産で、1ドル100円の円相場にて、30ドルのTシャツを買うなら、3000円で計算できますが、1ドル116円で、6250ドルの車が高いのか安いのかは、紙か電卓が必要です。これと同様、英語のまま覚えなければなりません。



(3) 日本語のテクニック ～ 察し(思いやり)と敬語

1思想と0思想について考えていた時、こんな電話が会社にありました。ちひろというお弁当屋さんが、昼休みのお弁当を持って来たのですが、「ちひろです。」としか言いません。私は、「ちひろですが、何なんだ。」と言いたかったのですが、「お弁当ですね、取りに行きます。」と答えました。「ちひろです。」から、お弁当を持って来た事を読み取らねばなりません。「ちひろですが、何なんだ。」は、日本語として正しくありません。しゃべり手が結論を言わず、聞き手が察する事で、日本語は一体(=0)になろうとしている。

こんな事もありました。会社で、ある部屋の警報ブザーが鳴っており、私に現場へ来て欲しいというものですが、現場で担当者に、「ここに居れますか？」とたずねたら、その返事は「会議がある。」です。ここは、「会議があるから居れない。」が正しいと思います。私が、「会議がある。」から居れないを察しなくてはなりません。

これらの会話、結論を言わないや聞いた事に答えない会話は、よくあります。上下関係の開きが大きければ大きい程、下の方は、上の人に対して、結論を言わず、察しがられています。これは、力を示していると考えられ、察しのいい上司は、力があると言えます。職場で、「結論から先に言え！」と言う上司がいますが、彼らは解っていません、日本語が。

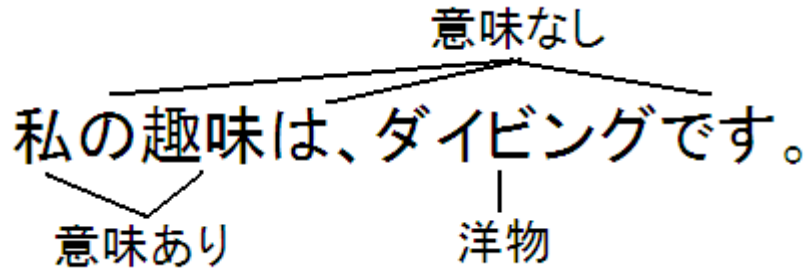
敬語も大切です。私は、敬語を目上の方を敬う言葉と思っていましたが、目下が護られるという術でもあります。「これやって。」は命令ですが、「これやって下さい。」は依頼になります。依頼になる事で、相手が受け入れやすい状況を作ります。敬語には、この作用があります。しかし、見知らぬ人の敬語は、要注意です。受け入れやすい状況を作る事で、裏があると考えた方がいいです。大抵、あなたのお金を狙っています。また、クールになれます。「○○じゃん。」や「○○さ。」よりも、「○○でございます。」は、一步、間を置いた会話になり、頭がよく冷えます。

これからも日本語を使うので、察し(思いやり)と敬語は大切です。しかし、日本社会が、アメリカナイズされた今、社会が元に戻らないので、この意見は、受け入れないでしょう。でも、大切です、日本語を使う時の察し(思いやり)と敬語は。結論を言わない事で、聞き手には察しが必要になり、察する事で、一体(=0)になろうとする。

6、アルファベットは26文字しかない

(1) 1の特徴の付け方

日本語には、漢字・ひらがな・カタカナの3種類があり、意味が凝縮された漢字を中心に、ひらがなを付けて、カタカナで洋物を表す。



英語は、ABC・・・Zまで26文字しかなく、詳しく説明しようとする文字が多くなる。

“This is a pen.”や“**This is a white cat.**”と説明しても、そんなものは見ただけで解り、会話が續かない。“**This is a very cute white cat which can run fast.**”と説明してはじめて、聞き手は、「誰の猫なの？」などとなり、会話になる。しかし、日本人には、**a very cute・・・**が、ペラペラに聞こえ、理解出来なくなる。でも、外人さんは、聞き手に詳しく説明しようとしているのである。

This is a cat.

This is a white cat.

→聞き手は、見ただけで解り、会話が續かない。

This is a very cute white cat which can run fast.

→聞き手は、「フーン、誰の猫なの？」などの疑問が湧いて、会話になる。

上の例は、catという名詞について特徴を付けているわけで、catという1個体を詳しく表現したと考える。つまり、1の追求をしているのである。

以下、1の特徴の付け方にどのような方法があるか説明する。

5つの方法がある。

- ①名詞の前に、形容詞を付けて(一般的に)特徴付ける。
- ②名詞の後に、前置詞を付けて(位置的に)特徴付ける。
- ③名詞の後に、関係代名詞を付けて(文を用いて)特徴付ける。
- ④名詞の後に、現在分詞を付けて(能動的に)特徴付ける。
- ⑤名詞の後に、過去分詞を付けて(受動的に)特徴付ける。

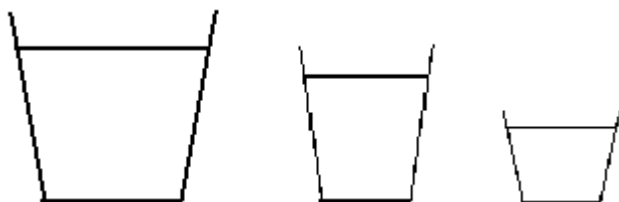
This is a very cute white **cat** which can run fast.
(一般的に) (文を用いて)

①名詞の前に、形容詞を付けて(一般的に)特徴付ける。

「形容詞は、名詞の前に置かれ、名詞を修飾する。」のが役目です。これをもう一步進めて、「形容詞は、名詞の前に置かれ、名詞を修飾し、名詞を分類する。」とします。

どういう事かと言うと、3つのコップが、大・中・小の大きさであったとします。

They are three cups.



大きさという形容詞を付けて、

They are a **large** cup, a **middle-sized** cup and a **small** cup.
で、aに戻りました。

また、形容詞には、比較級、最上級があります。

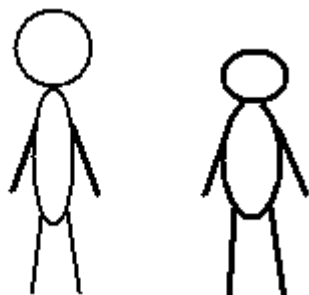
ここに、RyuとShigeという少年がいるとします。
Ryuは背が高く、Shigeは低いです。

They are two boys.

Two boys are Ryu and Shige.

2人の少年を高さの形容詞で比較して、

Ryu is **taller** than Shige.



ここでの注目は、RyuとShigeという1と1を比較している点です。

比較級は、比べる事だとは知ってしまいましたが、ある1とある1を比べる事なんだと思う事で、頭がクリアになります。

やはり、英語は、1の追求です。

②名詞の後に、前置詞を付けて(位置的に)特徴付ける。

磁石が、2個あったとします。

They are two magnets.

1つは壁に、1つは机にあります。

They are a magnet **on the wall** and a magnet **on the desk**.

1つは右手の上に、1つは左手の中にあります。

They are a magnet **on the right hand** and a magnet **in the left hand**.

1つは彼用で、1つは彼女用です。

They are a magnet **for him** and a magnet **for her**.

ほら1になったでしょう。なお、前置詞については、10項で詳しく述べます。

③名詞の後に、関係代名詞を付けて(文を用いて)特徴付ける。

2人の少女がいたとします。

They are two girls.

1人の母親はピアニストで、1人の父親はギタリストです。

They are a girl **whose mother is a pianist** and a girl **whose father is a guitarist**.

これで、1になりました。

④名詞の後に、現在分詞を付けて(能動的)特徴付ける。

オフィスに、3人の男性がいたとします。

They are three men at the office.

1人はしゃべっています、1人は書いています、1人は読んでいます。

They are a man **speaking**, a man **writing** and a man **reading** at the office.

1になりました。

⑤名詞の後に、過去分詞を付けて(受動的)特徴付ける。

赤い磁石が、2個あったとします。

They are two red magnets.

1つはAとマークされ、1つはBとマークされています。

They are a red magnet **marked A** and a magnet **marked B**.

小さい車が、2台あったとします。

They are two small cars.

1台はトヨタ製で、1台は日産製です。

They are a small car **made by Toyota** and a small car **made by Nissan**.

現在分詞、過去分詞を用いて特徴付ける時、現在分詞は、名詞そのものが動作している事を付けるので、例えば、**the boy swimming, the girl singing**など簡単ですが、過去分詞は理解しづらいと思います。

次の文を例にして、

Nagashima throws the ball.(能動態)

The ball is thrown by Nagashima.(受動態)

注目すべき点は、これも、Nagashimaとballという1と1の関係を表現している事です。RyuとShigeの1と1を比較したと同様に、1と1の関係を示しています。この感覚は、日本語の日常会話にはありません。この感覚が、英語的発想です。何かを比べたり、関係を表したり、分類したり。

ballは、Nagashimaによって、thrownされたのです。

よって、

The ball thrown by Nagashima

が成り立ちます。

過去分詞を付けて(受動的に)特徴付ける時は、by～(～によって)にて、されなければなりません。前ページの例文で示したAとBにマークされた磁石は、本当は、誰かによってマークされたのです。

つまり、

They are a red magnet marked A (by anyone) and a red magnet maked B (by anyone).

です。

同様に、車が駐車されている場合にて、

The car parked (by anyone) near the hotel is Vits.

となります。

英語は、1の追求と考えたら、頭がすっきりするでしょう？！

(2) 代名詞が物語る名詞の分類

“The woman singing on the stage is Kana.”とした後、The woman singing on the stageは、Sheになります。

いちいち、じゅげむ・じゅげむ～と永遠に、The woman singing on the stageを繰り返しません。

特徴付けられた後、名詞が、次に登場する時は、代名詞になります。ここ(代名詞)から、名詞をどう分類(カテゴリー化)するかが解ります。

BE動詞の別からは、

①自分AMは、1つ。

②単数ISは、3つ。

He・She→生物のオス・メス

This・That→物の遠・近

It→一般的に言って

③複数AREは、3つ。

We・You→敵・味方

These・Those→物の遠・近

There→一般的に言って

関係代名詞からは、

①Who→人

②Which→人以外

になります。

日本語では、人様と野良猫、人様とコップを同様に扱えません。

しかし、英語では、

This is Mr.Fukuda.

This is a cat.

This is a cup.

にて、同じ扱いをして問題ありません。

我々、日本人は、場面に応じ、言葉使いを変えねばなりません。

しかし、英語は、以下の程度で扱って、問題ないようです。

A) 自分か自分以外か

B) 自分以外の場合、単数か複数か

C) 生き物の場合、オスかメスか

D) 人間の場合、敵か味方か

F) 物の場合、近いのか遠いのか

英語は、単数・複数、オス・メス、敵・味方、遠・近程度しか気にせず、我々のように、場面に応じて言葉を選択しなくてもよいです。これは、精神を楽にさせます。気持ちは、態度で示そう。

7、英語は、単語の積み木だ

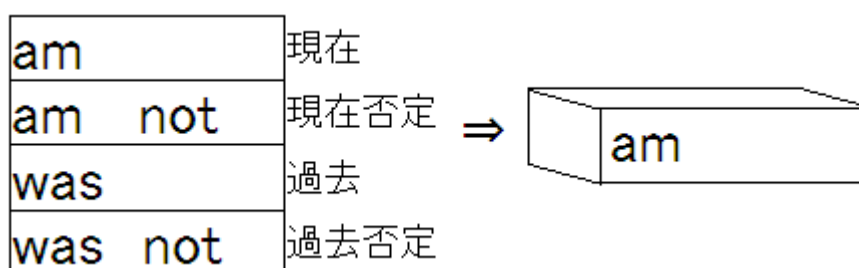
(1) 現在・過去・未来～♪ではなく、英語には、現在と過去しかない

willやbe going toにて、未来を表すと習ったが、これは、現在形である。willを未来形とした場合、wouldは、未来形過去になり、頭が混乱する。頭をすっきりさせたい。

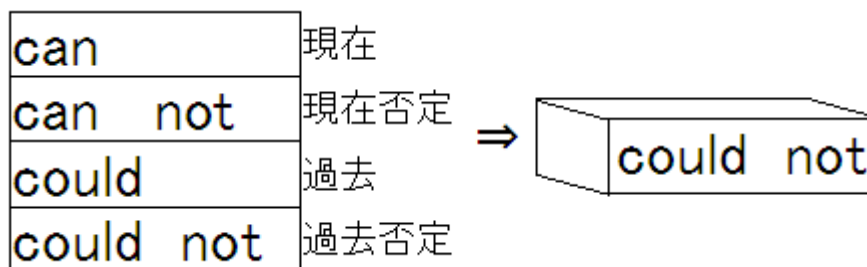
そこで、立体的に英単語を積み木のように組み立てる方法を考えた。

主語側のBE動詞・助動詞は、現在形・現在形否定・過去形・過去形否定の4つに変化する。これを四角柱に書く。

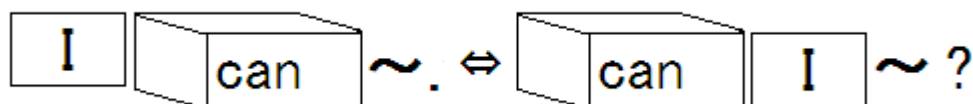
amを例にして、



同様に、canは、



主語(名詞・代名詞)との倒置で、疑問文になる。



よって、主語側の変化は、

(現在・過去)(肯定・否定)(通常・疑問) = 2の3乗 = 8通り。

ここは、デジタル的(ONとOFF)に考えて、主語側は、(現在なのか過去なのか)(肯定なのか否定なのか)(通常なのか否定なのか)と考えると、頭がすっきりする。

主語側の表現は、限定されると書いたが、何パターンあるか計算する。

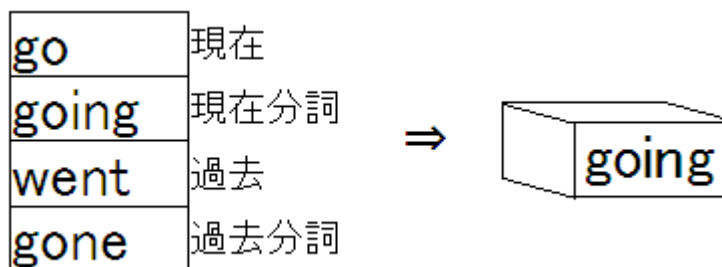
BE動詞は3 (AM、IS、ARE)
助動詞は5 (MUST、WILL、SHALL、CAN、MAY)
DOとDOESの2
HAVEとHASの2
合計12。

よって、 $8 \times 12 = 96$ パターン。
しかし、MUSTには過去形がないので、 $96 - 2 = 94$ パターン。

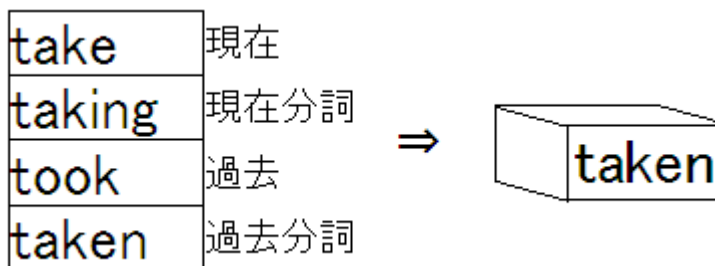
正確な数字を算出ではなく、主語側は、表現が限定される事を理解願いたい。

述語側(一般動詞)の変化は、現在形・現在分詞・過去形・過去分詞の4つである。

goを例にして、



takeでは、



動詞の変化として、goes(三人称単数)とto go(不定詞)も入れて、6つに変化すると考えて、六角柱(鉛筆)の側面に書いて回す方法も考えたが、goesは、単数・複数の際のSの移動、to goは、前置詞toの特別な用法として考えて、四角柱とした。

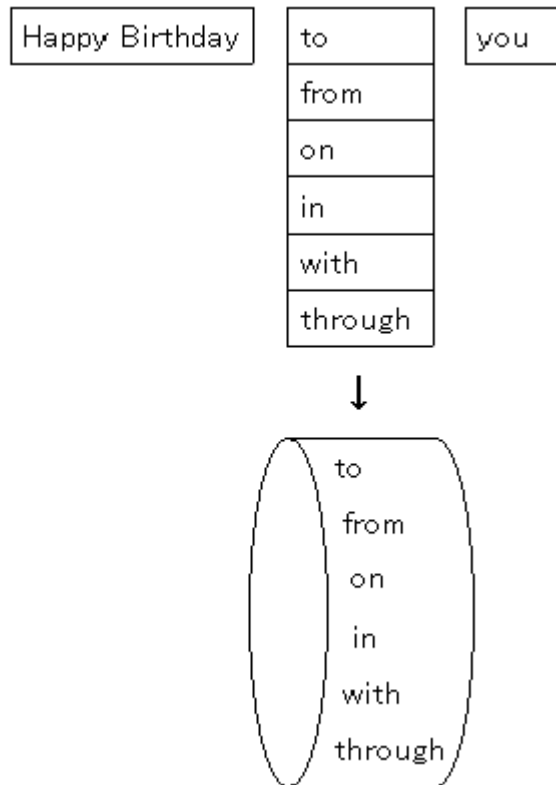
前置詞は、円盤の側面に書いて、それをグルグル回す。

Happy birthday to youを例にとって、あなたは、Happy birthdayというプラカードを持っています。

Happy birthdayというプラカードが、

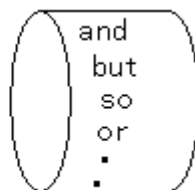
- あなた(you)に向かって来るならto
- あなた(you)から離れるならfrom
- あなた(you)の上にいるならon、
- あなた(you)の中にいるならin、
- あなた(you)と一緒にならwith、
- あなた(you)の中を通り抜けるならthrough、…… になります。

次のような感じですか。



接続詞も同様です。

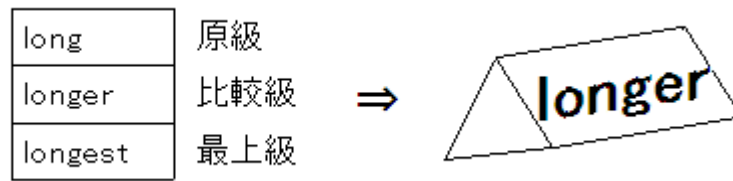
and, but, so, or, ……



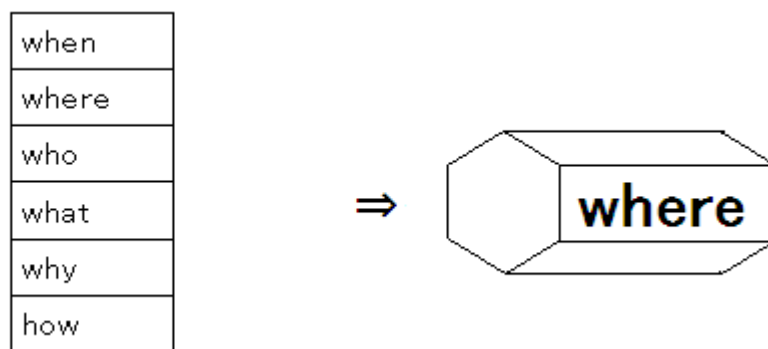
前置詞と接続詞を円板にするのは、数が限られないからです。前置詞・接続詞の数が〇コとと限られるなら、〇角柱の側面に書きます。

形容詞は、原級・比較級・最上級の3つに変化するので、三角柱に。

longを例にして、



関係代名詞(5W1H)は、六角柱(鉛筆)の側面に書きます。



これらを私は、レインボーブロックと名付けました。

ブロックには、色が8色あり、単語の機能別に分かります。

- ・赤:動詞
- ・橙:副詞
- ・黄緑:形容詞
- ・緑:名詞
- ・水色:前置詞
- ・青:接続詞
- ・紫:代名詞
- ・茶色:感嘆詞

レインボーブロックは、11項で詳しく説明します。

(2) こう英語で発想しよう！

英文を次のステップで作ります。

(ステップ1) 主語を選ぶ

主語(名詞)の特徴の付け方として、

- ①名詞の前に、形容詞を付けて(一般的に)特徴付ける。
- ②名詞の後に、前置詞を付けて(位置的に)特徴付ける。
- ③名詞の後に、関係代名詞を付けて(文を用いて)特徴付ける。
- ④名詞の後に、現在分詞を付けて(能動的に)特徴付ける。
- ⑤名詞の後に、過去分詞を付けて(受動的に)特徴付ける。

ここでは、④を用いて、

The girl singing on the stage

(ステップ2) 主語を選ぶ時に、主語が、次の3つのどれになるかを意識する

- ①自分なのか(I)
- ②単数なのか(Sが動詞に付く)
- ③複数なのか(Sが名詞に付く)

ここでは、②になる。

(ステップ3) BE動詞・助動詞の変化を選ぶ

(現在・過去)(肯定・否定)(通常・疑問) = 2の3乗

ここでは、has(現在)(肯定)(通常)を選ぶ。

The girl singing on the stage has

(ステップ4) 一般動詞の変化を選ぶ

(現在)(現在分詞)(過去)(過去分詞) = 4

ここでは、gone to America(過去分詞)を選ぶ。

The girl singing on the stage has gone to America.

これで、立派な英文が出来上がりました。

簡単ですね。難しくありません。

8、日本人のポテンシャルは、かなり高いぞ！

(1)カタカナ語で、たくさんの英単語を知っている日本人

たったの4ステップで、英文が作れました。

命令形で動詞の使い方を知っている事が前提となりますが、すごーい！と思いませんか？英語は、難しくないのです。

これが、外人の投げたボールを打つための正しいバットの握り方と構え方です。あとは、毎日の素振りで、自分のものにする。ネイティブ教師に頼る必要は、ありません。

そして、私達は、既に、身の回りの物を英語で何って言うか知っています。机をデスク、椅子をチェアと言い、ペンを筆とは言いません。付け加えますが、デスクをdesk、チェアをchair、ペンをpenとアルファベットで考える事が最終ラウンドです。デスク、チェア、ペンは、日本語です。

約100年前、ジョン万次郎が英語を日本語に訳す方法を教えてから、時代が変わり、洋物がたくさん日本に入りました。あとは、英単語の組み立てです。それを知らないだけです。それを補助するのが、レインボーブロックです。

(2)単語には頻度がある

学生時代、単語帳といって、表に英単語が書いてあり、裏に日本語でその意味が書いてあるものがありました。

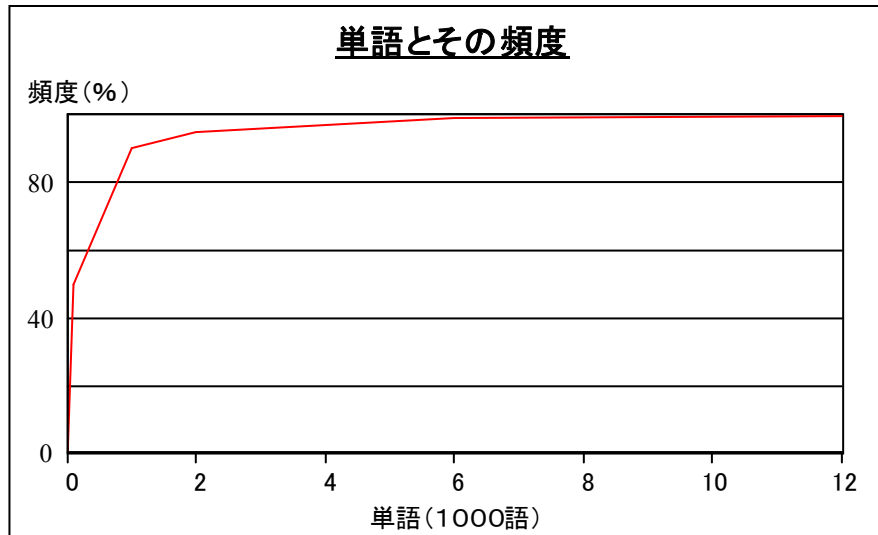
では、どのくらい単語を知っていればいいのでしょうか？

単語には頻度があり、Power Words(アルク社)は、12,000語までを頻度別にして、発刊しています。

私の調査では、単語の頻度は、以下の数字です。

- 1,000語で90%
- 2,000語で95%
- 6,000語で99%

これをグラフで表すと次ページになります。



私たちは、日常で使われる英単語の9割を既に知っています。しかし、1割を知りません。これは、とても重要な事を物語っています。

200語で出来た英文を読む時、

- 1,000語知っているなら、 $200 \times 0.1 = 20$ 語知らないから、その英文が理解出来ない。
- 2,000語知っているなら、 $200 \times 0.05 = 10$ 語知らないから、その英文を勘で読む。
- 6,000語知っているなら、 $200 \times 0.01 = 2$ 語知らないから、その英文が殆ど理解できる。

になります。

1,000語は、既に日本語の中へ日常的に入っている単語です。よって、私たちは、頻度90%の英単語を既に知っているのです。

アメリカやイギリスの教科書には、Head Words〇〇があり、頻度の高い単語で構成された本があります。私の経験から、TOEIC500を越えたところで、Head Words 2000は理解出来ましたが、それを越えた本は、理解出来ませんでした。私の友人が、TOEIC390の時、Head Words 1000は理解できましたが、Head Words 2000は理解できませんでした。

私は、Power Words 6000までしっかり覚えて、TOEIC600を越えました。6,000語までは、どこかで聞き覚えのある単語です。12,000語まで覚えると留学に支障がないと言われていました。また、10回同じ単語に出会うと脳は、記憶すると言われていました。

英単語の組み立て方を覚えた後、やみ雲に単語を覚えるのではなく、頻度に沿って覚えて行けば、あなたの英語力は確実にアップするでしょう！！

こうして、道を示す事で、山の頂上が見えて、山登りが出来るのです。

9、日本語では理解しにくい過去形の話

(1)助動詞は、何のためにあるのか

wouldが丁寧語になったり、If I were～が仮定になったり、ちょっと日本人には理解しづらいですネ。

9項では、それについて説明します。

まず、助動詞が何のためにあるのか説明します。

100語でスタート英会話(NHK教育テレビ)で、投野先生がこうおっしゃっていました。「助動詞を付ける事で、動詞のニュアンスが変わる。」「助動詞で、動詞(行為)の確立が下がると考えると解りやすい。」と。

こういう事です。

“I get A.”「自分がAを取る。」を例にして、

I		get A.
I	must	get A.
I	will	get A.
I	can	get A.
I	may	get A.

↓
get A する確立が下がる

矢印の方法に下がる程、(～する)確立が下がる。

“I get A.”は、「自分がAを取る。」と言い切り、100%の自信があります。

“I must get A.”も、「自分がAを取るに違いない。」と言ってはいますが、ひょっとすると取れないかもしれない。

“I will get A.”は、「自分がAを取るだろう。」とAを取れる域に達しており、たぶん取れる感じになります。

“I can get A.”は、「自分がAを取れる。」とAを取れる線を越えており、まあ取れるになります。

“I may get A.”になると、「自分がAを取るかもしれない。」と、たまに(模擬テストなんかで)Aを取っているが、本番ではどうかな?になります。

こんな感じで、動詞のニュアンスが変わっていくのが、お解りでしょうか?

否定形においても、同様である。

I	do not	get A.
I	must not	get A.
I	will not	get A.
I	can not	get A.
I	may not	get A.

↓ get Aしない確立が下がる

矢印の方向に下がる程、(～しない)確立が下がる。

助動詞をMUST(=義務)、WILL(=意思)、CAN(=可能性)、MAY(=推量)と考えず、こちらの方が、すっきりします。

(2)「コーヒー飲む？」よりも「コーヒー飲みたかったかな～？」で、表現を柔らかく

日本語で、「コーヒー飲む？」とダイレクトに聞かれるより、「コーヒー飲みたかったかな～？」の方が、表現が柔らかくなります。

“Do you want a coffee?”「コーヒー飲む？」

“Did you want a coffee?”「コーヒー飲みたかったかな～？」

これと同じで、

“Will you like a coffee?”「コーヒーを好みますか？」

“Would you like a coffee?”「コーヒーをお好みでしたか？」

と過去形になると表現が柔らかくなります。

よって、

“I will like a beer.”

よりも、

“I would like a beer.”

の方が丁寧な言葉になります。

頭ごなしに、I would like～が丁寧語を覚えず、助動詞において、過去形は、現在形より表現が柔らかくなると覚えた方がベターである。

電車で、座りたい時、

“Can you move a little?”「ちょっと動ける？」

よりも

“Could you move a little?”「ちょっと動けましたかね？」

になります。

(3) 過去形は、頭の中の世界である

過去は、今よりも昔の世界です。こう考えると、今という基準を持って、それより以前と考えてしまいます。しかし、そうではなく、過去形を頭の中の世界だと考えた時、仮定法、現在形と過去形の違いを明確に理解できます。

“If I were you, I would ask her a date.”

これを日本語では、こう訳します。

「もし、僕が君なら、僕は彼女をデートに誘うだろう。」

しかし、この文は、過去形なので、

「もし、僕が君(だった)なら、僕は彼女をデートに誘うだろう。」

が、より正確な日本語訳です。意味を正確にとらえています。

この文を現在形にして、

“If I am you, I would ask her a date.”

「もし、僕が君(だ)なら、僕は彼女をデートに誘うだろう。」

僕は、君じゃないので、おかしいですね。

英語→日本語変換で、“If ~”を「~なら」と訳すのですが、過去形は「~(だった)なら」、現在形は「~(だ)なら」です。

「~(だった)なら」は、過去形で仮定できます。

「~(だ)なら」は、現在形で現実を示し、仮定できません。

仮定法は、過去形を用い、現実ではない事を頭の中で仮定しているのです。

ここから、過去形は、頭の中の世界と考えられます。

とても好きな人がいました。

しかし、彼女に振られました。

“Did you love her?”「彼女を愛してた？」

↓

“Yes, I did, I loved her.”「はい、愛していました。が頭の中にある」—過去

“But I don't love her now.”「でも、今、愛していません。が現実である」—現在

wishを用いた文でも、「~(だった)なら、いいなあ。」で、頭の中の世界、つまり、過去形になります。

I wish Tigers would get victory this year.—理想＝過去形

But Dragons is stronger than Tigers.—現実＝現在形

I wish I would marry her.－理想＝過去形

She doesn't like me.－現実＝現在形

このように、英語では、現在形と過去形がはっきりしています。

現在形が、見た目そのもの、感じたそのままの現実を表すのに対し、過去形が、頭の中の世界(過ぎ去った事、仮定、理想)ととらえるとすっきりします。

私の経験から1つ。

ニューヨークのエンパイアステイト・ビルディングの展望台へ行く時の話なのですが、展望台へは、2回エレベーターに乗れねばなりません。私は、それを知らず、1回目で降りてしまい、ウロウロしていました。

そこへ、

“Did you go upstairs?”

と聞かれ、

これを

「(頭にある)上の階へ行った事が？」

ととらえたところ、すかさずに、“No(頭にない).”と答えました。

繰り返しますが、過去形を現在より以前とした場合、現在という基準を持たねばなりません。しかし、過去形を頭の中の世界ととらえた時、過ぎ去った事、仮定、理想が包括され、頭がすっきりします。

10、英単語の機能を理解しよう

(1) 単語は、8つに分類される

単語は、次の8つに分類されます。

- ・動詞 — verb
- ・副詞 — adverb
- ・形容詞 — adjective
- ・名詞 — noun
- ・前置詞 — preposition
- ・接続詞 — conjunction
- ・代名詞 — pronoun
- ・感嘆詞 — interjection

8つは、更に以下に括れます。

- ・内容語→動詞、副詞、形容詞、名詞
- ・機能語→前置詞、接続詞、代名詞、感嘆詞

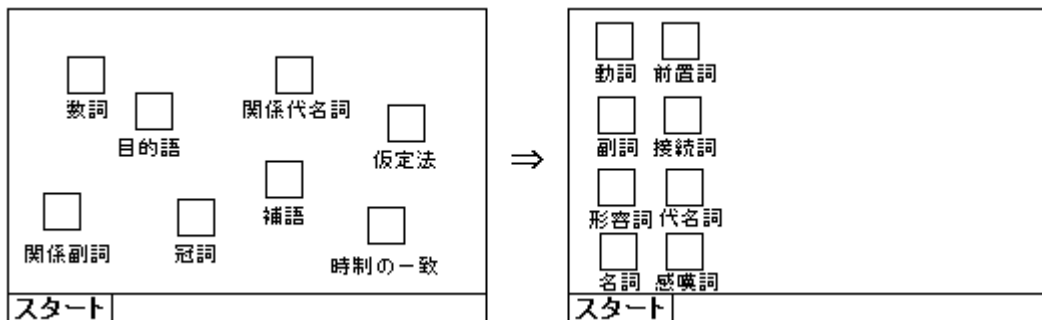
ここで、内容語は英文の内容を示し、機能語は英文の内容を示しません。

動詞、副詞、形容詞、名詞が、英文の舞台で踊ります。

10項では、この8つの分類から離れない事を学びます。

冠詞や数詞、関係代名詞に関係副詞、目的語・補語、時制の一致、仮定法・・・など、混んがらかった頭の中を整理します。

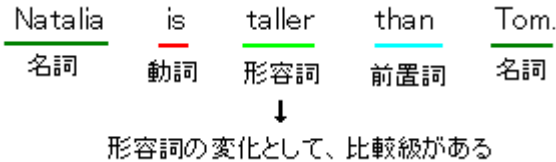
デスクトップ上に、混んがらかったアイコンを整理するように。



比較級では、比較級ありきではなく、形容詞の変化として、比較級が存在すると覚える。

まず先に、形容詞ありきである。

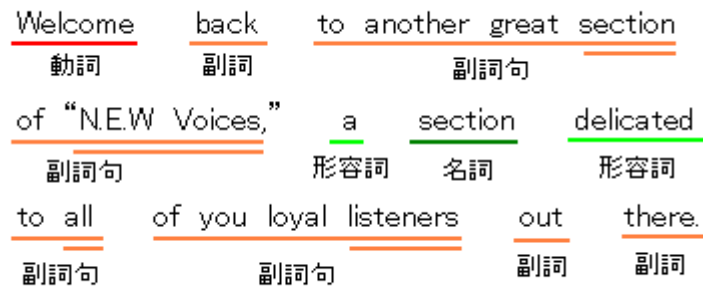
(例文4)



4ページで、前置詞を習っていない事は、日本での英語教育の大きな欠陥と書きましたが、本当に前置詞は英語で多用されます。前置詞は、preposition⇒pre+position⇒前+位置。名詞の前に置かれ、位置や状態を表します。前置詞の後には、名詞が来る事を私達のほとんどが知らないのです。

次の文で、to、ofの二重線は、名詞です。

(例文5)



ここで、内容語の主な役目を書く。

- ・動詞－行為、動作を表現
- ・副詞－動詞を修飾
- ・形容詞－名詞を修飾
- ・名詞－人・物・事を表現

乱暴な言い方であるが、英語は、主語・述語→何がどうだ→名詞・動詞の世界に、副詞・形容詞で修飾している。

と考えれば、簡単ですね？！

English is very easy, isn't it?

(3)前置詞は、記号で覚えよう

24ページで示したHappy Birthday to youにて、Happy birthdayのプラカードとYouの関係を前置詞で示すアイデアは、解りやすく、ベリー・グッドである。

○と・、そして→を使って、表現する。

○がyou、・がHappy birthdayである。

	●	→	○	
Happy birthday	to		●→○	Youへ向う
Happy birthday	from		○→●	Youを離れて
Happy birthday	in		●○	Youの中に
Happy birthday	on		●○	Youの上に
Happy birthday	at		●○	Youと一点で
Happy birthday	of		●○	Youと一体で
Happy birthday	for		●→○	Youの為に
Happy birthday	through		●→○	Youを通り抜けて
Happy birthday	into		●→○	Youの中へ向って
Happy birthday	with		●○	Youと一緒に
Happy birthday	by		○●	Youの側で
Happy birthday	behind		○●	Youに隠れて
Happy birthday	around		○●	Youの周りで

どんなもんだい？！

It's a good idea, isn't it?

(3) 英語には、「は、に、を」はない

フランス語やドイツ語には、「は、に、を」など助詞があるようですが、英語は歴史の中で、助詞を取ってしまったようです。

I am Shige.にて、「私は、シゲです。」に、「は、です」に相当する言葉はありません。I a man Shige.「1、1人間、シゲ」です。

Give me a chocolate.にて、「私に、チョコレートを下さい。」の「に、を」はないのです。

代わりに、英語では、語順が決まっています。

語順によって、5文型があります。

- ①S+V
- ②S+V+C
- ③S+V+O
- ④S+V+O+O
- ⑤S+V+O+C

これも、目的語や補語とやっついては、スピードに付いていけません。

命令形にて、

- ①動詞で終わる－第1文型
 - ②動詞の後、名詞又は形容詞で終わる－第2、第3文型
 - ③動詞の後、名詞・名詞、名詞・形容詞又は動詞で終わる－第4、第5文型
- でいいと思う。

命令形で、動詞の使い方をマスターすれば、OKである。

ちょっと、MAKEを例にして、補足します。

She makes me a cake.(動詞-名詞-名詞)

→「私」に「ケーキ」を作る

She makes me blue.(動詞-名詞-形容詞)

→「私」を「憂鬱」にする

She make me cry.(動詞-名詞-動詞)

→「私」を「泣く」にする

第4と第5文型は、理解しづらいですが、動詞-名詞-名詞の場合は、「」に「」を。動詞-名詞-形容詞又は動詞-名詞-動詞の場合は、「」を「」に。“に”と“を”が逆転します。

11、私の英会話教室

(1) TOEIC Bridgeを渡るため

TOEICの450点程度が、TOEIC Bridgeの満点と聞いています。

私の経験から、ここまでは、誰でも簡単に到達すると思います。

理由は、英語が日本語の中に入っており、私達は、ほとんどの身の回りの物を英語で何って言うか知っているからです。28ページで述べましたが、1000語を知っていれば、頻度90%は知っている事になります。日本人は、単語の組み立てが出来ないだけです。

約100年前、ジョン万次郎が伝えた英訳方法から、全く時代が変わりました。英語が日常で使われ、海外旅行ができて、インターネットで海外の情報が入る。

単語の組み立て方を視覚的に身体で覚えるのが、レインボーブロックです。頭の中で、ブロックが作れ、これを使えば、問題ないのですが、道具は必要です。

私は、難しい事は考えていません。ペラペラになるのは、本人の努力と時間が必要です。しかし、野球にて、バットの握り方を覚え、正しく構えて、外人の投げたボールを打ち、楽しく野球ができるような感じで、英語を覚える。外人が、いきなり早いボールを投げれば、打てないのは、当たり前ですから、まず、ゲームを楽しむようにする。それが、TOEIC Bridgeを渡る事であり、私の目指す所です。

小学5年生から、英語教育を始める事が決まりましたが、具体的にどう教えるか、その方法が、ありません。レインボーブロックは、具体的な英語力向上の手段です。日本の英語力を大幅に向上させる道具と自負します。英語の世界標準になれるとも思っています。

11項では、レインボーブロックの考え方を中心に、具体的な英語的発想について、述べて行きます。実際の授業にどう取り入れるかについて、現場の先生達から、ご意見を聞きたく、本書の巻末にある連絡先まで、ご一報頂ければ、幸いです。

レインボーブロックによって、既存する英会話教室が無くなるのでは？と心配までしています。でも、まず、発想を覚え、それを強固にするため、英会話教室は欠かせません。しかし、教室に通っても、英語を得とくできないのが現状です。それを打破したい。

年少から年配まで、英語を習得したい意欲のある方は、世間に多くいて、これらの人達に光を当てたい。これが、私の願いであり、本書の狙いです。そして、英語を習得する具体的方法、これが、レインボーブロックです。

(2)レインボーブロック

形状は、7項で示したので、色分けの説明をする。8つの単語別に色を分ける。

動詞	赤	
副詞	橙	
形容詞	黄緑	
名詞	緑	
前置詞	水色	
接続詞	青	
代名詞	紫	
感嘆詞	茶	

虹色(七色)に木(茶)のイメージです。それぞれの色には、意味があります。何故、黄色がないのかを質問されそうですが、後で説明します。

(A) 形容詞(黄緑)と名詞(緑)について

形容詞は、名詞を修飾するのが役目なので、黄緑と緑で、近い関係を意味する。

She is a beautiful girl.

ここで、aは、名詞を修飾するから、形容詞と考える。冠詞と考えない。

彼女は、She is a girl.であり、She is beautiful.でもある。よって、aが最初に来るといふ事は、a beautiful girlと発想している。つまり、形容詞＋名詞で、外人は、発想している。これに後付けで、a beautiful girl with a dogと発想する事を習慣付けたい。

日本では、車をカー、机をデスクなど、カタナカにて、英語で何って言うか教えているが、これは、日本語である。せめて、a white carやa small car。更に、a red car near the houseやa large black carと発想する様、心掛ける。

(B) 動詞(赤)と副詞(橙)について

副詞の役目は、動詞、形容詞、他の副詞、文全体を修飾する事である。しかし、adverb⇒ad+verb⇒動詞に加えると考えて、赤に近い橙にした。これが、黄色を用いない理由である。

I have already washed my hands.

副詞にも、比較級や最上級があるが、副詞は、文中に差し込むイメージがあり、形状は、三角柱より、平板がいいと思われる。

レインボーブロックの形状と色を以下に示す。

動詞	四角柱	
副詞	平板	
形容詞	三角柱	
名詞	平板	
前置詞	円柱	
接続詞	円柱	
代名詞	四角柱	
感嘆詞	平板	

(C) 前置詞(水色)と接続詞(青)について

どちらも円盤の側面に書いて、クルクル回し、適正な場所で止める発想である。前置詞の役目は、名詞と名詞の関係を説明する。接続詞の役目は、文と文、名詞と名詞、形容詞と形容詞をつなぐである。

(D) 代名詞(紫)について

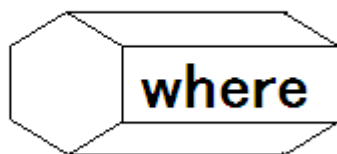
I・my・me・mine、you・your・you・yours、he・his・him・his、を四角柱に書いて回す発想である。

(E) 感嘆詞(茶色)について

WowやYeahを平板に書いて、付け加える発想である。

(F) 5W1H(白:色なし)について

英文は、5W1Hで整理される。よって、英文を整理して考えるために、とても重要なので、レインボーブロックに取り入れる。しかし、関係副詞(橙)や関係代名詞(紫)となり、色が変わるので、色をつけない。



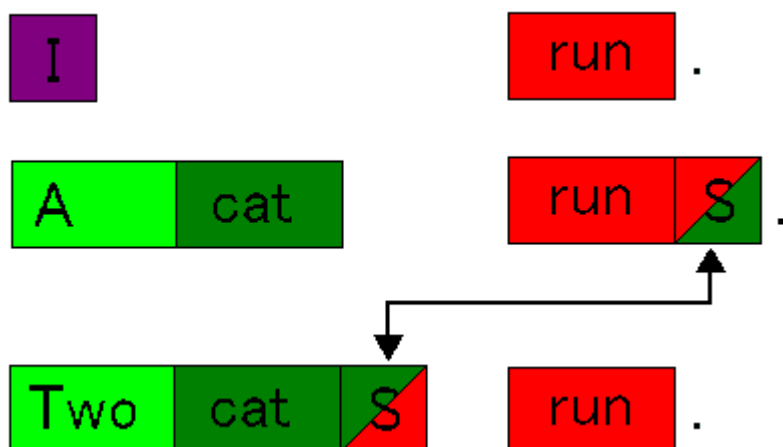
(G) IとSについて

三人称単数の動詞にSを付け忘れないために、これを考えました。このレインボーブロックの最もクレバーな点です。

I(紫)の裏にS(緑と赤)が書いてある。



主語がIでない時は、裏のSを使う事になり、主語が単数の時は動詞(赤)へ、複数の時は名詞(緑)へ付くと発想する。こうする事で、常に数を意識する事になる。



IとSのカードは、常に持ってあり、自分(I)でない事を言う時は、Sが主語か述語(動詞)のどちらかに付くと発想すれば、三人称単数の動詞にSを付け忘れがなくなる。そして、英語がピシッと決まり、カッコよくなる。

How wonderful this idea is!

(G) 一般動詞の4つの変化について

動詞は、英語の心臓で、大変に重要です。これを詳しく書きます。

命令形を原文に、4つの変化、現在形・現在分詞・過去形・過去分詞、そして不定詞、動名詞について、命令形を原文にして、こんな感じでとらえると良いです。

ある野球場で、川上監督、長島、王、そしてボールの関係です。長島がボールを取って、投げるシーンを想像して下さい。

川上監督が、そのボールを投げろと命令する。(命令形)

Throw the ball!

長島が投げる。(現在形)

Nagashima throws the ball.

まさに今、投げている。(現在分詞)

Nagashima is throwing the ball.

投げ終わった。(過去形)

Nagashima threw the ball.

投げ終えて、彼らしくポーズを取っている。(過去分詞)

Nagashima has thrown the ball.

投げられたボールは、王へ。(過去分詞)

The ball thrown by Nagashima is going to Oh.

投げ終えた長島は、こう語った。(不定詞)

To throw the ball was exciting.

川上監督は、言った。(動名詞)

Thank you for throwing the ball.

同様に、ヘイ・ジュードを歌ってとリクエストされた言われた私は、

Sing Hey Jude!(命令形)

I sing Hey Jude.(現在形)

I am singing Hey Jude.(現在分詞)

I sang Hey Jude.(過去形)

I have sung Hey Jude.(過去分詞)

Hey Jude sung by me is different from the Beatles.(過去分詞)

To sing Hey Jude is fun for me.(不定詞)

Thank you for singing Hey jude for me.(動名詞)

throwもsingも同じ変化をする。

命令形の原文から、動詞は、

・現在形→現在分詞→過去形→過去分詞と連続して変化する。

・また、目的語は、過去分詞にて、～されたの形容がされる。

・Toを付ける事にて、名詞句になる。

と整理すれば、頭がすっきりします。

長島が、ボールを取って、カッコよくスローイングして、投げて、矢のような送球が王に行った時、長島は、投げる動作を持ったのです。一連の動作をして、

Nagashima has thrown the ball.

これに対して、赤ちゃんは、長島のように投げられません。よって、

The baby hasn't thrown the ball.

赤ちゃんは、投げる動作を持っていないのです。しかし、赤ちゃんは、ボールをつかめます。だから、

The baby has taken the ball.

投げれないが、つかむ動作を持った、つまり、経験した。これが、完了形です。

また、連続した動作をされた側(目的語)は、～されたの表現が出来ます。

The ball taken by the baby is mine.

データを取って、それを整理して、報告書にまとめた。

I have written the report.

ここで、書いただけなら、

I wrote the report.

中田英俊が、イギリスでのプレーが決まった時に、

I have been wanting to play soccer in England.

「ずっと、サッカーをイギリスでしたかった。」とインタビューに答えていました。

Haveを用いると、ずっと、のニュアンスが付きます。ここで、このずっととは、動詞の一連の動作の事です。

そして、受動態は、現在完了形の続きにて、受身ができると考えます。

赤ちゃんは、ボールをつかむ事を経験した。

The baby has taken the ball.

赤ちゃんにつかまれたボールは、

The ball taken by the baby

が、成り立ちます。

又、

The ball is taken by the baby.

も、成り立ちます。

これは、受動態と表現されますが、**The baby has taken the ball.**にて、**taken**されたボール=**the ball taken by the baby**と考える。

能動態VS受動態と教えられましたが、ある動作が完了して、された側と考えた方が、自然である。命令形から流れる動詞の変化ととらえると、自然になります。

エキサイトしたファンにて、fanの前後にexcitedと付け、

excited fan

the fan excited

の表現がありますが、

excited fanは、形容詞を用いて(一般的に)特徴付ける。

the fan excitedは、過去分詞を用いて(受動的に)特徴つける。

the fan excitedの場合、誰か、何かによって、エキサイトさせねばなりません。よって、

the fan excited by Kanemoto

the fan excited by the game

とbyが、必須になります。

現在分詞の場合、**the fan exciting the game**にて、名詞そのものがしている行為を示すので、簡単ですが、過去分詞の場合、**the fan excited by Kanemoto**にて、何によってされているかを意識せねばなりません。

そして、受身は、された側と教えられましたが、解りやすくすると、(動作＝動詞が完了)された側とすると解りやすい。

Nagashima has thrown the ball.

の動作完了から来る、

The ball thrown by Nagashima

あるラーメン屋で、店長から、

Eat this noodle!と言われ、私は、

I eat the noodle.

I am eating the noodle.

I ate the noodle.

で、汁まですっかり飲んで、「ああ、美味しかった。」となったら、

I have eaten the noodle.

そして、(食べる動作が完了)されたラーメンは、

The noodle eaten by me is in my stomach.

になります。

ラーメンをちょっと食べて、「こりゃ、美味しくない。」と食べるの止めても、

I ate the noodle.

は成り立ちますが、完了していないので、

I haven't eaten the noodle.

です。

(3)小学生用英会話教室

次の順序で、教育したい。

1年生:何もしない。

2年生:アルファベットが書ける。

3年生:命令形にて、動詞の使い方を身体で覚える。

→体操服に着替えて、実際に体験を伴って覚える。

特に基本16動詞

GET, DO, HAVE, MAKE, PUT, GIVE, KEEP, GO, COME, TAKE,
SEEM, SEE, SEND, LET, SAY, BE

前置詞の正しい使い方を覚える。

→アメリカでの授業を取り入れる。

4年生:名詞を特徴付けて表現する。

主語・述語表現が出来る。

IとS(単数と複数)の違いを表現出来る。

5年生:単語の8つの機能が理解出来る。

内容語を句や節で括り、動詞・副詞・形容詞・名詞で表現が出来る。

6年生:Headword 2000で構成された文章が読める。

VOA special Englishが聞き取れる。

ここまで来れば、TOEIC Bridgeを渡れる。

小学6年生で、VOAが聞き取れるのは、優秀な人ですが、中学校卒業までには、誰にでもできると思います。それと英語教材にて、VOA special English (<http://www.voanews.com/specialenglish/>)は、大変に良い教材です。授業で引用しても構いません。1500語で内容が構成され、ゆっくりとしたスピードでしゃべります。このVOA special Englishを聞き取れないのに、CNNは、聞き取れません。

次ページからの大人用英会話教室で、私の考える具体的な教室について、書きますが、覚える順序は、大人用英会話教室でも子供用と同じです。レインボーブロックが受け入れられて、具体的な授業内容について、教育現場におられる先生達とアイデアが出し合える事を望みます。

(4) 大人用英会話教室

私が講師となり、イメージする英会話教室を説明します。6人程度の教室をイメージして頂いて、英語的発想を得とくする方法を書いてみます。

(A) 命令形の原文を作る。

メモ程度の小さな紙に、ひとりずつ、どんどん命令形を1枚1葉で書きます。

Play the guitar、Get out、Sing a song、Call the police、……どんどん。

書けない人には、私から、Passですね？とやりながら。

再度パスなら、Pass again?と、楽しい雰囲気を大事にする。

その紙は、捨てずに残して置く。

(B) 原文を各自が身体を使って、読みながら表現する。

メモを見ながら、主語Iを先頭に置いて、表現する。

“I play the guitar.”にて、ギターを弾いたポーズをする。

“I get out.”にて、教室から立ち去る。

などなど。

ここで、私は、もう英語表現が出来た事を伝える。

生徒は、これで英語っていいんだと思うに違いない?!

(C) ニックネームと自分の趣味を表現する。

英語表現は、今まで(日本語と)違った見方をする事になる。

よって、ニックネームにて、違った人(国際人)なる事をお勧めする。

務さんならTom、亜美ちゃんならAmyなど、名前と全く違うニックネームでもよい。

そして、趣味と共に、自己紹介する。

“I am Shige, I am a diver.”

これを聞いた私は、

“You are Shige, you are a diver.”

と繰り返す。

ここで、他の人は、

“He is Shige, he is a diver.”

を認識する。

そして、BE動詞は、この3つしかない事を再認識させる。

(D) 他人に命令する。

自己紹介が済み、場が和んだ所で、机を囲んで、席を輪にする。

先程、作成したメモを机に置いて、ひとりが、それをランダムに取り、他の一人に指さして命令する。

命令する時に、今度は、Youを付けて、“You sing a song.”

そして、指さされた人は、歌うポーズをする。

“You call the police.”にて、電話を掛けるポーズをする。

また、見ている人は、さっき聞いたニックネームを付けて、“Tom plays the guitar.”

“Amy calls the police.”と考える。

講師が、“What does he/she do?”と質問してみる。

ここまででも、充分、効果があると思う。英語的発想ができると思われます。
生徒6人と書きましたが、この練習は、講師と生徒2人で出来ます。

(E) S(数)を意識する。

ホワイト・ボードと磁石を使って、磁石達を意識する。磁石は、赤、黄色、緑、青、白などが
数個ある。また、サイズも大きい物や小さい物、AやBと書かれた磁石もある。

これらを整理して、magnetsを意識させる。

また、どうすれば、a magnetになるか考えさせる。

文房具を使って、長い鉛筆や短い鉛筆、色違いのペンや色鉛筆、大小のクリップなどなど
を用いて、整理整頓して、OOs、a OOを意識させる。

They are two pencils.

They are a long pencil and a short pencil.

(F) 正しい前置詞の使い方を覚える。

Happy birthday to youにて、Happy birthdayのプラカードを作り、講師が“Happy birthday
on you”と言ったら、頭の上に、“Happy birday in you”ならプラカードを抱きかかえる。

“Happy birthday to Tom”では、Tomにプラカードを向ける。

これを応用して、先程の文房具を利用して、“A long pen through you”としたり、“A red
magnet maked A to Amy”と磁石を探させて、Amyにあげたりする。

この(A)～(F)を繰り返し、徹底的に動詞と正しい前置詞の使い方を覚える。書いた命令
形は、捨てずにとって置く。

ここで、講師は、5文型を覚えておく。

Makeを例に、

Make a cake----- (動詞の後に)名詞で終わる。

Make him a cake---- (動詞の後に)名詞-名詞と来る。

Make him mad----- (動詞の後に)名詞-形容詞と来る。

Make him go----- (動詞の後に)名詞-動詞と来る。

第4文型、第5文型は、助詞のある日本語では理解しやすく、理解に時間がかかる。よっ
て、講師が説明しながら、生徒にも、発想させる。

Let it be、Let her goなど。

(G) 動詞の変化を覚える。

ある動詞を取り上げて、マンガチックに動詞の変化を考える。

例えば、“Come to my home, Santa Claus!”と願い。

Santa Claus comes to my home.で大きな袋をぶら下げる。

Santa Claus is coming to my home.で犬ぞりに乗っている。

Santa Claus came to my home.で煙突に入る。

Santa Claus has come to my home.でプレゼントを大きな靴下に入れている。

のようなマンガである。

いろいろな動詞で、生徒自身が、動詞の変化を絵を書ければ、なお良い。
例えば、“Go to Hawaii!”の思いをマンガにする。

I go to Hawaii.で航空券を手に入れている。

I am going to Hawaii.で飛行機に乗っている。

I went to Hawaii.で、アロハシャツを着ている。

I have gone to Hawaii.で、思い出の写真を見ている。

こんな感じのマンガである。

(H) 名詞を特徴付けて表現する。

各自が持っている写真を用いて、それを詳しく説明する。

説明するのは、名詞で、写っている名詞を取り上げて、それを詳しく説明していく。

ポイントは、名詞の前後にどうくっ付けて詳しく説明するかである。

次の写真を参考に、



①名詞の前に形容詞を付けて、一般的に特長付ける。

Two young couples

②名詞の後に前置詞を付けて、位置的に特長付ける。

Two young couples on the street

③名詞の後に関係代名詞を付けて、文を用いて特長付ける。

The day when I took this picture

④名詞の後に現在分詞を付けて、能動的に特長付ける。

The man putting on his cup

⑤名詞の後に過去分詞を付けて、受動的に特長付ける。

The ticket held by his hand

(I) 単語の8つの機能を覚える。

文章に8色ペンでマーキングする。
34ページのように。

(J) 句や節を覚える。

8色でマーキングした文章を蛍光ペンで動詞、副詞、形容詞、名詞として括る。

(K) スケジュールリングをして、実際に行動する。

グループが親しくなり、連帯感が生まれたら、仕上げに行動をしたい。

How to ○○にて、○○は、(A)で作った命令形を当てはめる。

まず、この○○をグループで決まる。

こんな感じです。

メンバーは、Tom, Amy, Toshi, Aya, Shigeです。

このグループは、How to cook Sukiyakiにした。

盛り上がって、海外旅行しようなら、How to go Saipanでもいい。

①命令形で実施する事を書き上げる。

Buy some foods

Make a list to buy some foods

Gather the place where we eat Sukiyaki

Check a book that teaches us how to cook

Ask someone who teaches us how to cook

.....。

②担当(主語)を決まる。

Aya and Shige buy some foods.

Aya makes a list to buy some foods.

We gather the place where we eat Sukiyaki.

Tom checks a book that teaches us how to cook.

Amy asks her mother how to cook Sukiyaki

.....。

③いつまでに、場所は、を付け加えながら、順序を決める。

Amy asks her mother how to cook Sukiyaki on 4th.

Tom checks a book that teaches us how to cook on 5th.

Aya makes a list to buy some foods on 7th.

Aya and Shige buy some foods on 11th in the morning.

We gather Shige's house on 11th at 16:00.

.....。

④5W1Hで、文を整理して、英語は、5W1Hになっている事を知る。

Who does Amy ask how to cook Sukiyaki?

When does Tom check a book?

When does Aya make a list?

How much do Aya and Shige need to buy some foods?

Where do we gather?

When do we gather?

.....。

⑤現在分詞にて実際に行動する。

Amy is asking her mother how to cook Sukiyaki in the kitchen.

.....。

⑥過去形でチェックする。

Tom checked a book on 5th and he bought the book.

.....。

⑦完了形で終了する。

We have cooked Sukiyaki.

一緒にすき焼を食べて、教室は、一旦終了する。

ここからは、本人の日々の練習になる。

必要なら、講師は、その手助けをする。

12、おわりに

英語は、難しい言葉ではない。英語を日本語に訳して、英語を理解する事が難しく、日本語を英語に変換しようとするから、英語がしゃべれないのです。そして、英語は、1を追求する言葉で、その原点は、I。つまり、自分になっている。これに対して、日本語は、和を大切にする0思想からできている言葉で、主語の私を言わないし、私が場面に応じて変化する。

これに気付かれたでしょうか？

英語は、

- ・命令形を原文にし、これにIを付けると、自分の要求が伝わる。
- ・命令形を原文にし、動詞は、4つに変化して、動作をとらえる。
- ・命令形を原文にし、助動詞を付けると、ニュアンスが変わる。
- ・IとSは、裏表の関係にあり、常に数字を意識する。
- ・アルファベットは、26文字しかないため、名詞の前後を形容して、特長を表す。

この程度を意識するだけで、英語表現ができます。

レインボーブロックは、これらを具体的に得とくする道具です。

是非、小学生の英語教育にご採用をお願いしたい。また、大人にも、十分な効果があると思います。

出版を一粒社さんに相談した時、社長さんから、これは良い案で、子供だけでなく、年配者にも使えるとのコメントを頂いた。それと、「単語の変化が解る単語帳のようなものがあればいいなあ。」のご意見があり、これをヒントにオリジナル単語帳を考えた。

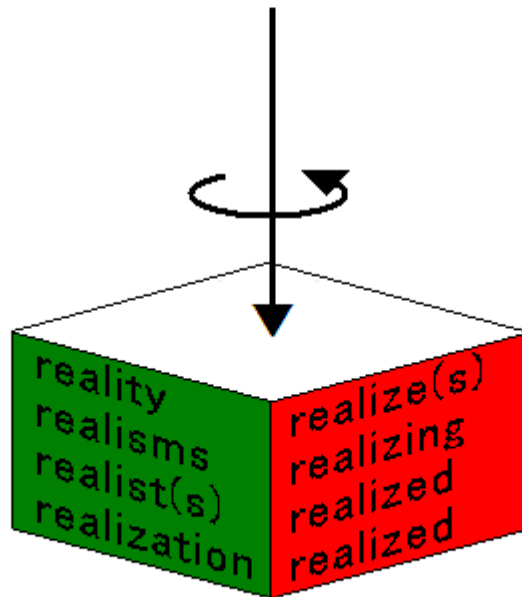
CARE(動詞・名詞)は、CAREFUL(形容詞)、CAREFULLY(副詞)に変化する。

REAL(形容詞)も、REALLY(副詞)、REALIZE(動詞)、REALISM・REALIST・REALITY・REALIZATION(名詞)に変化する。

一般動詞を現在形・現在分詞・過去形・過去分詞を四角柱に書いて、これを縦に回した。

今度は、動詞・副詞・形容詞・名詞の変化を横に回す発想である。

動詞化	副詞化	形容詞化	名詞化
realize(s) realizing realized realized	really	real realistic realizable	reality realisms realist(s) realization



単語の塊を“句”や“節”になると考えると書いたが、これを動詞化・副詞化・形容詞化・名詞化の“化”すると考える。

こう発想すれば、

John goes out.(名詞-動詞-副詞)の英文にて、

out(副詞)をto school(副詞句)に置き換えて、

John goes to school.

out(副詞)をwhen I get up(副詞節)に置き換えて、

John goes when I get up.

out(副詞)をquickly(形容詞quickの副詞化)に置き換えて、

John goes quickly.

の様に、置き換えにて、表現がワイドになっていく。

35ページで書いた、英語は、主語・述語＝名詞・動詞の世界に形容詞・副詞で修飾を加える。それが、句・節・化になると整理すれば、簡単である。

私が、真夜中に飛び起きて叫んだmy real dreamが、本になってrealityになり、日本人のreally?本当にそんなに簡単に英語ができるの?が、realizeされます。

2001年12月2日の真夜中に気付いてから、これまでをまとめました。

2006年6月10日

本書に関するお問い合わせ先

有限会社 一粒社
〒475-0837 愛知県半田市有楽町7-148-1
TEL:(0569)21-2130 FAX:(0569)22-3744
<http://www.1tsubu.com/index.html>
page1@1tsubu.com

TOEIC Bridgeを渡るための 英語的発想のススメ

発行 2006年6月25日

著者 Shige Grayfield

発行 有限会社 一粒社

定価 本体300円 + 税

Rainbow Blocks

can not

go

動詞

slowly

副詞

taller

形容詞

teacher

名詞

on
in
at

前置詞

and
or

接續詞

She

代名詞

yeah

感嘆詞

when
where
who

5W1H

I S

I & S